SUPER GTレポート

レース報告

シリーズ最終戦は6位入賞!

2013 SUPER GT 第8戦 MOTEGI GT 250km RACE inツインリンクもてぎ

苦しみながらも7位で通過 —予選—

1年間戦ってきた2013年スーパーGTの最終戦は、11月2日(土)に予選、11月3日(日)に決勝が行われた。8台のマシンがチャンピオンの権利を持ったまま戦うこのレースでは、各車ここまで積み上げたウェイトハンデを下ろし、開幕戦と同じ状態での勝負となる。抜きどころの少ないもてぎでは、予選順位が重要となるため、予選ではこれまで好結果を生んできたQ1を伊藤が走り、Q2でカルダレッリがタイムを出すという作戦をとった。

予選では、チャンピオン争いをしているチームがQ1敗退するなど荒れ、チームも気温の低下によるタイヤのグリップ不足に苦しみなんとかQ1を8位で通過。Q2でも順位を1つあげ7位という結果を得た。

決勝当日は、最終戦らしくサーキットまでの道路も早い時間から混雑するなど来場者は朝からチャンピオンの行方を見守った。

続く我慢の走行 —決勝レース前半—

予選でのタイヤのグリップ不足を解消すべくマシンの調整を図ったが、午前のフリー走行で思うような感触を得られないまま決勝を迎えた。前半を担当したカルダレッリは、オープニングラップで数台のマシンに先行を許し10番手となり、背後からも、シリーズ2位からの逆転チャンピオンを狙うマシンにかわされる。11番手となったカルダレッリだが、徐々にマシンを落ちつかせながら我慢の走りを続け、10周を過ぎた頃からわずかずつギャップを縮め、途中1台を抜き10番手に。20周目には次々とGT500クラスのマシンがピットに入り始め、KeePer TOM'Sも23周目にほかのマシンに続いてピットイン。

最終戦にふさわしい走りを見せる —決勝レース後半—

伊藤にドライバー交代したKeePer TOM'Sは、ピットイン時と同じく10番手でコースに復帰。翌周には9番手へポジションアップ、さらに3周後、8番手まで上がる。

徐々に前との差をつめていくKeeper

TOM'Sは、レース中盤に7番手となり、35周過ぎについに中段争いトップのマシンへ追いつく。10周にわたり繰り広げた激しい6位争いを制して6番手となり、先頭を追いかける体制に入るが、先頭グループとのギャップが大きく広がっており、直後を走るマシンの追撃を振り切り6位入賞で最終戦を締めくくった。

今年チームを移籍、トムスチームによるサポート体制となったKeePer TOM'Sは2013年をシーズン8位、表彰台2度獲得という大きな成長を果たした。

AUTOBACS SUPER GT GT500

KeePer TOM'S SC430 2013年シリーズ結果

開催日	サーキット	順位	ドライバーポイント
4/6·7	第1戦 岡山国際サーキット	15位	0P
4/28·29	第2戦 富士スピードウェイ	6位	5P
6/15·16	第3戦 セパン・インターナショナル・サーキット(マレーシア)	10位	1P
7/27·28	第4戦 スポーツランドSUGO	2位	15P
8/17·18	第5戦 鈴鹿サーキット	5位	8P
9/7·8	第6戦 富士スピードウェイ	3位	11P
10/5·6	第7戦 オートポリス	9位	2P
11/2·3	第8戦 ツインリンクもてぎ	6位	5P

ドライバーランキング 8位(総合ポイント 47P)

LEXUS TEAM KeePer TOM'S / 伊藤 大輔 アンドレア・カルダレッリ

年に一度の冬の祭典

2013 SUPER GT 特別編 JAF Grand Prix-FUJI SPRINT CUP 2013

モータースポーツの祭典に参戦

2013スーパーGTシーズンが終了し、富士スピードウェイでは国内モータースポーツの祭典「JAF Grand Prix-FUJI SPRINT CUP 2013」が開催された。2人のドライバーが交代しながら走る通常のレースと違い、土曜日に第2ドライバーによるレース1、日曜日に第1ドライバーによるレース2と1人ずつに分かれ、それぞれが22周のスプリントレースを戦う。スタート方式も普段のローリングスタートではなく、F1などで見られるグリッド上からスタンディングスタートとなりオープニングラップから様々なドラマを生んできた。

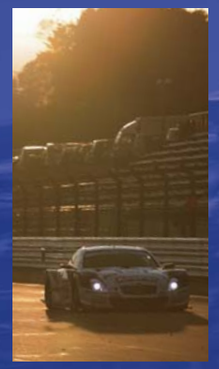
この週末は両日とも、各チームが低い気温に翻弄され、マシンセッティングに苦戦することになる。

力走するもカルダレッリ無念のリタイア —レース1—

12番手からシーズン唯一のスタンディングスタートに臨むカルダレッリは、スタートで良い反応を見せ、前のマシンにイン側から並びかけるが、1コーナーでは、その前を防がれ順位は変わらず12番手のまま。それでもオープニングラップで1台をかわし11位にポジションアップ、3周後にはさらに1台を抜き10位に。7位を走るマシン以下が数珠つなぎに走る中、カルダレッリがハンドルを握るKeePer TOM'Sのマシンは毎周ベストタイムを刻み懸命に前を伺う。

力走を見せるが10周目、突如燃圧が下がりエンジンがストップしてしまう。再スタートを試みるがエンジンが掛かり動き出すとすぐに同じ症状でストップするため、ここで悔しいリタイアを喫することになった。後にピットでは症状の再現が得られず、確信的な原因をつかむことができないままマシンセッティングの調整のみを行い翌日のレース2を迎える。

不安が残るも伊藤が懸命に走行 —レース2—

迎えた日曜日、予選8位のポジションからレースに臨む。タイヤ・セッティングを変更してレースに備えたが、スタートでわずかに出遅れオープニングラップを11位で戻ってくる。5周目、前を走るマシンに追いつくも熱が入りづらいタイヤを装着するマシンのペースが上がらず徐々にその前との差が開いていく。レースも残り8周と後半に差し掛かるころ、前を走るマシンとのバトルの影響でともに順位を落とし13位となる。

その2周後にはペースも戻り12位に順位を回復する。KeePer TOM'SのマシンはS残り少ない周回もさらに順位を上げるべく走行を重ね、11位となったところでチェッカーフラッグ。苦戦の続く週末だったがチームドライバーは最後まで走りぬき、1年戦ってきたKeePer TOM'Sは2013年の全日程を終了した。